

第331回 神戸塾 火曜サロン
鼎談「父たちの戦争」

11月14日(火) 18:30~(開場18:00)

参加費 500円 [要予約]

お話：南輝子(歌人・画家)

ジャカルタで虐殺された父を追う。

玉川侑香(いちばぎやらりい侑香・詩人)

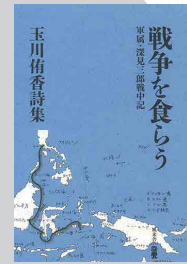
アンボンで造船に携わる。

所薫子(アールスペースかおる・エッセイスト)

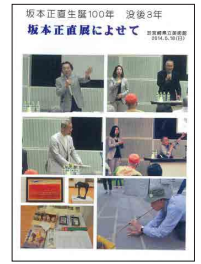
中国大陸・台湾の帰還兵の画家・父坂本正直の作品、記録を発表しつづける。



南輝子
「War is Over」
(ながらみ書房)



玉川侑香
「戦争を食らう」
(風来舎)



所薫子
「坂本正直展によせて」

世界全体がひたひたと戦火への道を辿りつつあります。

1945年の敗戦を自らのものとして受け止めてこなかった、この国は、再び、同じ道を歩もうとして恥じることはありません。

見回せば親しくしている皆さんが、時を同じくして今まで封印してきた戦地にあった「父」を振り返り、歌集・詩集・美術展や画集などを相次いで出されました。

そして「父」の戦火とのありようがそれぞれに違うことも、大切な気づきを与えてくれます。

第332回 神戸塾 火曜サロン

「食物と戦争と記憶——パンと野イチゴ」

11月28日(火) 18:30~(開場18:00)

参加費 1000円 [要予約]

お話：山崎佳代子(詩人・エッセイスト)

お相手：季村敏夫(詩人)

ユーゴスラビア内戦で難民となった友たちが、食物を通して戦争を語った書物、それが「パンと野イチゴ」(勁草書房近刊)です。

どんなに厳しい時代にも、救い、喜び、希望を探らなくてはならない。

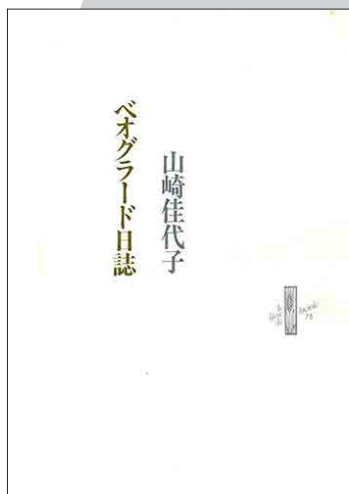
そして、私たちができる一番小さなことは、多くの不正義を潜り抜けた人々の言葉に耳を傾けること……。

今、生まれつつあるこの書物を出発点として、戦争とはなにか、食物とはなにか、家族とは、友とは、

そして人生とは何かを話し合う時間を皆様とともにできたら幸いです。

バルカン半島の戦争の記憶に、私たちの父母たちの体験した戦争、

そして神戸や東北の大震災の記憶を織り込んだときに、どんな肌触りの布が織りあがることでしょうか。



山崎佳代子(詩人、翻訳家)

1956年生まれ、静岡市に育つ。北海道大学文学部露文科卒業後、1979年、サラエボ大学に留学。1981年よりベオグラード在住、ベオグラード大学日文学教授。2016年国際日本文化研究センター研究員。

ユーゴスラビア内戦時に、難民支援グループ『ズドラボ・ダ・ステ』に参加。

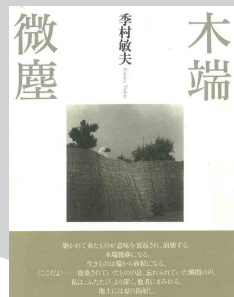
主な著書に、『ベオグラード日誌』(書肆山田)、『そこから青い闇がささやき』(河出書房新社)など、

詩集に『みをはやみ』(書肆山田)など、翻訳書にダニロ・キシユ『若き日の哀しみ』など。

セルビア語詩集 Olujin breg により 2015年、ミリツァ・ストヤディノビッチ=スルプキニャ賞受賞。

2015年、読売文学賞受賞。

近刊に食物から戦争を記憶する『パンと野イチゴ』(勁草書房)。



季村敏夫(詩人)

1948年京都生まれ、神戸で育つ。古書店勤務の後、亡父経営のアルミ製品販売に携わる。

2012年、現代詩花椿賞受賞。

[会場・お問い合わせ・お申込み] *地図は裏面をご覧ください

ギャラリー島田/アート・サポート・センター神戸

〒650-0003 神戸市中央区山本通2-4-24 B1F mail info@gallery-shimada.com tel&fax078-262-8058 http://www.gallery-shimada.com